

異文化間で平和考える



ドイツの移民問題について意見を交わす高校生たち＝8日、那覇市の沖縄尚学高校

子供平和会議 沖尚高で開催

「グローバルシテ
イズン」地球の一員であること



第1回子供平和会議
(対馬丸記念会主催)が
8日、那覇市の沖縄尚

学高校で開かれ、
「をテーマに高校生約60人が意見を交わした。理解を深め合い、平和づくりについて考えるのが目的。」

トルコからの移民問題で揺れるドイツを取り上げ、異なる文化間で、どう平和を実現するかを考えたと。

ドイツ国民の立場で意見を述べた生徒は「移民に対し最低限の権利は認めたと上で、納税額に応じて別の権利も認める」、移民の立場からは「経済状況にかかわらず、働く機会が平等にするべき」などの意見が出た。中には「移民にお金を払い、国の外に出て行ってもらおう」との考えもあった。宮古高1年の比嘉芹良さん(16)は「平和への意識を高めていきたいと思う」と話した。